

## 令和6年度 第3回 学校運営協議会 議事録

(2025年1月24日(金) 15時30分～16時50分 於 本校校長室)

出席者：学校運営協議会委員

森勇太 有本昌剛(ご欠席) 辰巳千佳子 山内太一 原田沙織 眞鍋亘

本校より校長 教頭 事務長 松本首席

### ◆議事

#### 1. 校長挨拶

- ・R6 学校経営計画及び学校評価について、
- ・R7 学校経営計画及び学校評価については指示事項等をふまえ、整い次第、お示し、ご意見をいただく。

#### 2. 学校運営協議員確認、会長挨拶

- ・学校運営協議員 森会長よりご挨拶

#### 3. R6 学校経営計画と現状報告

〈校長より〉

- ・学校教育自己診断(生徒)「授業がわかりやすい」について数値が右肩上がりである。これは、学校教育自己診断(教職員)「生徒の学習に応じて学習指導の方法や内容について工夫している」の肯定的数値の伸びにもつながっている。
- ・電子黒板導入やペア学習・グループ学習が行われていることなどにより学校(教職員)が生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容を研鑽していると分析している。
- ・人権、同和問題、SNSに関するモラル指導などしっかり行っている成果だと思われる。
- ・学校教育自己診断(保護者)「学校生徒指導の方針に共感できる」について  
さまざまなくみは行っているが、もう少し数値をあげていきたい。
- ・NEXT10委員会の取り組み  
課題を洗い出し変革に向けた検討をしている。  
働き方改革→休み方改革：制度の活用、休暇取得しやすい環境づくりを。  
「変えられることから進めていこう」の考えにより教員からの声を大切にしながら議論している。

#### 4. 協議

< 原田 委員より >

○教職員の働き方について

- ・快く休める環境をつくってほしい。
- ・保護者の意見をみていると、旭高校が選んでもらえるような学校づくりをしてほしい。

< 森 委員より >

Q 休みづらいということはあるのか

A 担任になると休暇がとりづらい。制度を使ったときのフォロー体制が難しい。

→森委員：よい方向に向かってほしい。

< 森 委員より >

○ 学校教育自己診断について (④イウエ)

- ・生徒がわかりやすい=教職員が工夫している数値アップが喜ばしい。

Q 何か組織的な対応をしてきたのか?

A 相互授業見学。

コロナ禍で若い先生が年配の先生に不慣れな ICT を教えてくれる。ベテラン先生から若い先生たちに授業方法など教える事がある。お互いに聞きやすい関係が構築された。また、公開授業がもっと保護者の見学者が増えると良い。

Q 公開授業はどれぐらい行っているのか。

A 年2回。選んでもらえる学校につながる。

< 眞鍋 委員より >

○ これからの 国際文化科 について

Q 公立高校の魅力づくりの一つとして国際文化科の特色は? 「私学文系をめざす」など中学生や保護者にわかりやすいキャッチフレーズがあっているのでは?

A 英語科とは差別化を図りながらわかりやすいカリキュラム作成している。

一般入試、国公立をめざしている生徒がいる。

A 留学など出口の充実を図る。

< 辰巳 委員より >

○ 高校卒業後の出口 について

- ・今の中学生・保護者は途中のプロセスより結果を求める傾向があり。

○ 国際文化科 について

- ・方向性が決まっているような感覚がある。
- ・何を勉強するのか、どのような職業に就いているのか、わかりやすい説明の工夫をするとよい

○ 働き方改革について

- ・工夫や仕組みづくりが必要
- ・男性育休取得について・・・その代替の確保が困難

< 山内 委員より >

・超過勤務について

仕事の分散化を組織として考える必要あり

・遅刻について

Q どういう理由で遅刻がある？

A 体調不良など理由はさまざま

5. 校長謝辞

6. 諸連絡（事務局）

次回予定

- ・2025年6月後半を予定